

「もしもお金がなかったら」 —アクティビティ※を通してお金の役割を考える—

東京都立西高等学校教諭 新井 明

事例の 位置付け	実施学年	第1学年
	教科等	現代社会 政治・経済
	単元名	金融の仕組み、金融政策

ねらい

- 金融現象の根本をなす貨幣の機能に関して、アクティビティを通して実感させ、関心を高める。
- 貨幣の流通量によって物価が変動することを、同じくアクティビティを通して実感させ、関心を高める。
- 二つのアクティビティを通して実感した貨幣の役割と社会的影響を理論的に考察して、経済社会のなかの貨幣の重要性に気づかせる。
- 貨幣の管理者である中央銀行（日本銀行）の役割と金融政策に関する基本的知識を身につけさせる。

展開の特色

金融に関する授業は、往々にしてマクロの金融政策を紹介し、それを知識として理解させることが多い。しかし、貨幣現象である金融を理解するには、体験を通して理解させることにより、本当に役立つ知識として定着させることができると考えられる。

本実践は、二つのアクティビティを通して、生徒が貨幣とマネーサプライの増減の社会的影響について実感的な理解ができるように構成されている。

二つのアクティビティともそれほど大がかりでなく、授業者としても取り組みやすくなっているので、金融学習の中核的学習活動として位置づけることができよう。

構成

- 第1次 貨幣の役割と金融……………（1時間） <本時>
- 第2次 日本銀行の役割と金融政策……………（1時間）
- 第3次 パーソナルファイナンスを巡って…（1時間）

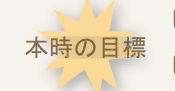
事前の準備

- 貨幣の実物や見本などを準備しておく。アクティビティ用に品物やお金のカードなどを自作しておく。

次時の予告、用意

- 日本銀行がお金の量をいかにコントロールしているかを次回のテーマとすることを予告する。日銀に関する記事の収集を指示する。

本時の展開



- アクティビティを通して貨幣の役割を理解させる。
- アクティビティを通してマネーサプライの増減が物価に大きく影響することを理解させる。
- 二つのアクティビティを通して貨幣をコントロールすることの大切さとそれを担う中央銀行の役割を理解させる。

	学習内容	学習活動
導入	① お金の不思議にせまる	・新発行の紙幣を用意して、ただの紙がなぜお金として通用するのかを問いかける。
展開	② お金にはどんな種類があるのだろうか？	・昔のお金と今のお金を比較させる。→昔のお金は金や銀など。 ・お金にはどんな種類があるかをシートに書かせる。
	③ もしお金がなかったら	・アクティビティ① その①…7人にそれぞれお金なしに物々交換をさせる。

教師の支援、指導上の留意点	資料等
・問題提起なので、すぐに答えをもとめない。	・新札
・可能であれば実物を持ち込む。	・授業プリント ・紙幣やコインなどの実物、もしくは模造品
・あらかじめ生徒を指定しておく。 ・ノートや鉛筆などを用意して実際にそれを交換させても良い。	・品物のカードもしくは実物

memo・注 ※アクティビティとは、ゲームやロールプレイ(役割演技)など、実際に体を動かす授業での活動のこと。

	学習内容	学習活動
展 開	4 お金がたくさんあれば happy か	その②…お金を投入したらどうなるかを観察させる。 →交換手段としての貨幣の役割を確認させる。 ・アクティビティ② その①…オークションをする。 その②…2度目をする。 ・2度の結果からどんな仕掛けがされたかを推定させる。 ・種明かしをする。 →2度目は1度目に比べ貨幣量を2倍にしてある。ここから、貨幣数量説を説明する。
	5 お金の管理は難しい	・お金が多くて困った例として、お札をみてそれがどこかを推定させる。→第一次大戦後のドイツ ・逆に急に減らして困った例を挙げさせる。→ドッジライン時など ・インフレとデフレを説明して理解させる。 ・日本でお金をコントロールしているのは誰かを問う。 →日本銀行
まとめ	6 お金を管理する方法は	・日本銀行がお金の量をいかにコントロールしているかを次回のテーマとすることを予告する。

教師の支援, 指導上の留意点	資料等
・お金のカードを用意しておく。 ・オークションの品物と模造のお金を用意しておく。	・説明用のカード
・ $MV = PT$ の式をカードで用意しておく。 ・日本銀行の役割を簡単に触れる。	・マルクの紙幣の写真や見本, またはインフレがひどい国の紙幣
・日銀に関する記事を収集するように指示する。	・新聞の経済欄

● 評価の観点

- 1 積極的にアクティビティに参加していたか。
- 2 アクティビティを通して貨幣の役割や、マネーサプライの増減が物価に大きく影響することが理解できたか。
- 3 二つのアクティビティを通して貨幣をコントロールすることの大切さとそれを担う中央銀行(日本銀行)の役割を理解できたか。

参考資料

アクティビティ①に関しては、経済教育研究会編『新しい経済教育のすすめ』清水書院(1997年), 及びVTR『世の中なんでも経済学』2000年放映の8回「どうして1万円は1万円なの」NHK教育テレビ(市販はされていないので、学校放送局に問い合わせを利用してもらうとよい)で扱われている。
 アクティビティ②に関しては、スティグリッツ『入門経済学第2版』東洋経済新報社, p.436に貨幣数量説と現実の関係が論じられている。

● その他授業の補足

アクティビティ①では、自分が持っているものを相手も欲しいと思い、相手も同じ気持ちであるという物々交換の「二重の偶然」が簡単に成立しないようにしたい。そのためには、持っているものと欲しいものの総数が一致しないようにしたり、欲しいものを覚えさせて、声をあげてそれを求めさせたりするなどの仕掛けをしておくとうい。

アクティビティ②では、貨幣数量説、フィッシャーの交換方程式の概略を解説することになるが、現実には貨幣の流通速度も絡んで、簡単に物価とマネーサプライは比例関係になるわけではないことにも触れるようにしておきたい。

なお、本稿では貨幣とお金を厳密に区別して表記していない。生徒の実態に応じて適宜使い分けるとよいだろう。

memo・注



